英国のパブで蒸留酒の販売が11月上旬に20%超減少

NielsenIQによると、消費者の支出抑制でワインとビールの販売も落ち込み、ホスピタリティ業界は年末商戦の盛り上がりに期待を寄せている

2026年11月23日（月）



NielsenIQが11月20日に公表した分析によると、英国のパブやバーなど、店内で飲酒する施設での酒類販売は11月前半に低迷し、なかでも蒸留酒の落ち込みが最も大きかった。

NielsenIQによると、消費者の支出抑制がホスピタリティ施設の売上を圧迫し、11月は低調な滑り出しとなった。同社のデータでは、蒸留酒の販売は11月7日までの週に前年同期比23.5%減、11月14日までの週に20.9%減だった。

ワインとビールも減少したが、蒸留酒ほどではなかった。ワインの販売は11月7日までの週に前年同期比11.2%減、11月14日までの週に6%減。ビールはそれぞれ6.2%減、2.8%減だった。

このデータは、店内で酒類を消費する施設で、主要な酒類カテゴリー全般に圧力がかかっているこ

とを示している。報告対象となった2週目は減少ペースが鈍化したものの、3カテゴリーすべてで前年同期の水準を下回った。蒸留酒は両週とも最も低調なカテゴリーだった。

こうした動きから、月初には高価格帯の飲料注文への支出が特に圧迫された可能性がうかがえる。パブやバーは繁忙期にカクテル、ミックスドリンク、ショットの販売に大きく依存しており、蒸留酒の売上が大きく落ち込めば、ビールの減少が小幅な場合よりも収益への影響が大きくなり得る。

NielsenIQは11月の出足を低調と評し、業界は年末商戦の追い風に期待していると述べた。年末に向けて祝賀会や集まりを通じて通常は勢いを増す英国のホスピタリティ業界にとって、今後数週間が重要となる。

この減速はパブやバーにとどまらず、より広い範囲に影響する。クリスマス前に店内飲酒向け市場が軟化すれば、ビール、ワイン、蒸留酒の生産者、卸売業者、販売業者による受注量、在庫水準、販促活動の見通しにも影響しかねない。NielsenIQの調査対象となった両週で最も大きな落ち込みを記録したことから、蒸留酒の供給業者には特に当てはまる可能性がある。

データはまた、店内飲酒向け需要の回復が依然として一様でないことを示した。11月14日までの週、ビールとワインの前年同期比の減少幅は前週より縮小したが、いずれもプラス成長には戻らなかった。蒸留酒も前週からわずかに改善したものの、販売は前年同期比でなお5分の1超の減少となった。

英国のホスピタリティ事業者にとって、11月上旬のデータは、消費者が裁量的支出に慎重な姿勢を保っている兆候に加わるものだ。酒類企業にとっては、通常なら業界全体の売上を押し上げるクリスマス前の時期に、パブ、バー、レストラン向けにどれだけの在庫を確保するかを判断するうえで、今回の数字が影響する可能性がある。